

どちらも待ったなし、Windows10移行と働き方改革対応 ムダの少ない賢い選択は、 Windows10移行と働き方改革を 同時に着手

今のタイミングでは、Windows10移行と 働き方改革を同時に計画することが良策

Windows7の延長サポートの終了が2020年1月に迫ってきた。多くの企業でWindows10への移行を計画するために現状把握や要件整理など準備が進められている。Windows10は名称こそ「Windows」だが、これまでのWindowsとは、まるで異なるコンセプトのオペレーティング・システム（OS）だ。



Windows10はWindows as a Serviceというコンセプトで、定期的に大型のアップデートが行われるため効率的な管理運用が必要になる。そのためアップデート対策は重要で、事前にアップデートについて十分に検証しWindows Server Update Services（WSUS）などによる対策を検討する必要がある。アップデート対策としてデスクトップ仮想化（VDI）の導入を検討する企業もあるだろう。それにあわせてネットワーク環境の見直しも必要になってくるはずだ。

また、働き方改革関連法案の成立を受けたこともあり、働き方改革への取り組みは、あらゆる企業にとって喫緊の課題であり早急に対応しなくてはならない。そのためICTを活用したテレワークにより働き方改革の推進も検討すべきだろう。

Windows10への移行は、これまでのWindowsのバージョンアップのような単なるPCの入れ替えにとどまらないシステム全体の見直しと再構築が必要になる。もちろん移行するPCの台数規模によってはPCの入れ替えだけでよいケースもあるだろう。

システム全体の見直しを必要とするのはWindows10移行だけではなく、働き方改革のためのICT環境整備でも同様なため、Windows 10移行に伴うVDI導入やPC入れ替えの計画段階で、「働き方改革」を視野にいれた計画をすることが必要であり、ひいてはそれが効率的なIT投資につながるということを留意しておくべきだ。次項では、働き方改革とICT活用のポイントを解説する。

働き方改革関連法案が2018年6月に成立。 働き方改革への取り組みは急務に

成立した働き方改革関連法案では、残業時間の上限が規制され、それを越えて労働させた場合には企業には罰則が適用される。法的な拘束力があるため、これまでのように残業時間が青天井であるという対応はできなくなる。残業には、本当に必要な残業と不要な残業があるため、企業は実際の業務状況を分析し、効率的な業務を行える環境整備を行う必要がある。

ノートPCなど端末選定では業務を効率的に行える仕様であるかというポイントで検討しなければいけない。



働き方改革は長時間労働是正に目を向けがちだが、労働人口の減少が進む現在では、子育てや介護など家庭の事情で離職せざるを得ない社員も存在する。テレワークによって自宅からでも働くことができれば離職せずに働き続けることができる。企業にとっても優秀な社員の離職を防ぐことができるテレワークは人手不足に有効な対策であるといえる。

テレワークで問題になるのは会社のシステムへアクセスするうえでセキュリティをどう確保するかということだろう。重要なデータが情報漏えいしないような仕組みが必要になる。自宅でのテレワークということであればデスクトップ仮想化（VDI）がデータを端末に残さないという点で適しているだろう。自宅はオフィスほど高いセキュリティではないためデータを残さない端末選定がよいだろう。また、自宅であればネットワーク環境も安定しているためVDI利用には有利だ。

関連情報：「未来のワークスタイルを切り拓く富士通のVDI」

<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/virtual/vdi/>

Windows10移行での端末導入は働き方改革を意識して検討すべき

Windows10移行ではノートPCの入れ替えをはじめとしたシステム刷新が計画される。そして、働き方改革が急務な現在、働き方改革を意識した端末選定が効率的なIT投資といえる。Windows10移行と働き方改革を別々に計画することは二重のIT投資につながりかねない。

端末選定において必要なことは利用者である社員から端末についてのニーズを聞くことだ。前項で紹介した、重いノートPCを支給したために社外に持ち出す社員が少なく長時間労働の原因になっていたという例もあるので、端末ニーズを事前に把握しなければIT投資が無駄になるだけではなく、働き方改革の取り組みが後退することにつながりかねない。

Windows10移行というタイミングでもあるため、Windows10運用に適した端末選定も考慮すべきだ。自宅でテレワークする社員や内勤の社員の端末はこの機会にVDIで運用する、社外で勤務することの多い営業やサービス部門の社員には持ち運びの負担の少ない軽量で長時間駆動できるノートPCを選定する、など適材適所の端末選定をすべきだろう。端末だけではなくテレワークで安全に社内システムにアクセスできるようなネットワーク環境の整備も計画するとよいだろう。

「機器選定」において留意すべきポイントは、導入費用はもちろんだが、利用者ニーズの把握と展開後の運用を考慮することだ。

働き方改革のためのテレワークに適したノートPCの選び方

経営者の多くは、営業職にはオフィスにいる時間を減らし、顧客と会う時間を増やすことを望んでいる。顧客との接点を増やすことで商談機会も増えるからだ。そのためには直行直帰などオフィスに行かなくとも業務を行えるテレワークが必要になる。しかし、テレワークのためにノートPCを支給したものの、重いために持っていかず働き方が変わらなかったという企業もあるため、テレワーク用のノートPCが軽量であることは必須の要件だ。

また、営業資料などでいっぱいになった鞆で持ち運びするケースが多いことを考慮すると、薄型で軽量であることに加えて、バッテリーだけでも長時間利用可能なモバイルPCであれば、ACアダプタも不要になるためテレワークに適しているといえる。

それと、テレワーク用ノートPCは持ち運ぶことが多いので堅牢性も大切な要件だ。荷物でいっぱいの鞆の中で圧力がかかっても壊れない頑丈なノートPCを選ぶべきだろう。

社外で利用するテレワーク用ノートPCとしては、情報漏えいなどへのセキュリティ対策が施されているかも非常に重要だ。いまだにセキュリティが問題となってノートPCの社外持ち出しを禁止する企業も存在するほどだ。不正利用を防ぐための生体認証やセキュアに端末のデータを利用・保護するための仕組みやツール、そして万が一の端末紛失時にリモートでデータ消去できるソリューションを搭載している機種を選ぶべきだ。

テレワークに適したノートPCを選ぶ際のポイント

- 持ち運びの負担が少ない軽量モデルである
- 多い荷物でも鞆に入る薄型である
- 満員電車や、荷物の多い鞆の中でも圧力に耐える堅牢性がある
- バッテリー駆動による長時間利用が可能である
- セキュリティを高める生体認証を搭載している（できる）
- セキュアにデータ利用しデータ保護ができる仕組みやツールを搭載している
- PC紛失時の対策としてリモートデータ消去ソリューションを搭載している

● Case Study コクヨ株式会社の事例からみる、軽量薄型のPCによる働き方改革

“より良い働き方”を顧客に提案するために 社内のワークスタイル変革を進めていく

キャンパスノートをはじめとするさまざまな文具や事務用品、オフィス家具の製造・販売を手がけるコクヨ。単にオフィス家具を販売するのではなく、働く空間づくりや働き方の提案も行えることが強みであり、ユニークポイントといえる。

「お客様により良い“働き方”や“オフィス空間の在り方”、“オフィスの使い方”を提案するためにも、当社では早い時期からオフィスのフリーアドレス化やクラウド環境の構築などに取り組み、柔軟性の高い環境を構築してきました」。こう語るのは、コクヨの情報システム部 インフラプランニング ユニット長の弁木純氏だ。実際に社員たちが働く現場を一般公開することで、ソリューションの効果を体験できる「ライブオフィス」も、働き方にこだわる同社ならではの取り組みだろう。

そうしたオフィスでのワークスタイル改革を進めてきた同社では、出張先や在宅においても働きやすい環境を整えるため、セキュリティの高いモバイルPCの導入を検討していたという。

799gという持ち運びやすさと高度なセキュリティ環境の両立

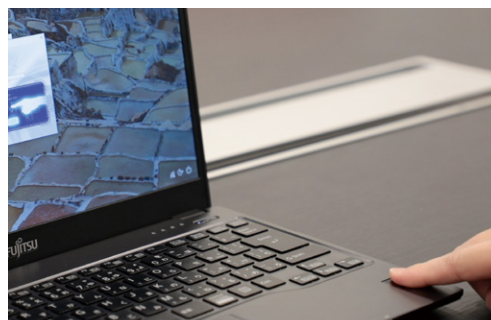
以前は、営業担当の社員にはノートPCとiPadの2台が支給され、オフィスではノートPC、外出先ではiPadという使い分けがされていたというコクヨ。当時の課題について、同じくインフラプランニングユニットの井口圭介氏はこう話す。

「外出や出張の多い営業担当の社員から“ノートPCが重すぎて持ち歩く気にならない”、“iPadでは資料の編集がしにくい”といった声が数多くあがっていました。そこで、軽量・薄型のモバイルPCにリプレイスするための検討をはじめたのです」

テレワークへの対応も軽量なモバイルPCに切り替える後押しになったという。さまざまな選択肢の中から富士通LIFEBOOK U937/Pを選定した理由については、次のように話す。

「一番の理由は、13.3型の画面サイズでありながらも軽量・薄型なことでした。以前のノートPCは、持ち歩きの際の重さが課題となっていました。また、ノートPCとiPadの2台支給からLIFEBOOK U937/Pを1台の支給に変更したことで、総コストを下げることもできました」

13.3型液晶、厚さ15.5mm、重さ799gというスペックは、モビリティ面でもユーザビリティ面でも選定のポイントとなったようだ。さらにセキュリティ面でのメリットについて、井口氏は「パスワード入力では盗み見されるリスクもありますので、指紋認証機能を搭載できることは安心感につながっています。また、オプションとして手のひら静脈認証を搭載できる点も評価しています」と説明する。



「安全性の高いPC環境を実現したことで、社員も安心してモバイルPCを社外に持ち出せるようになりました。LIFEBOOK U937/Pの薄さと軽さも手伝って、営業担当社員のワークスタイルは大きく変わってきています」（井口氏）

実際にLIFEBOOK U937/Pを活用している社員からは好評の声が上がっている。例えば、ある男性社員からは、「タブレットからモバイルPCになったことで、オフィスに戻らなくても見積作業ができるのは便利」という意見のほか、「営業の隙間時間を有効に使えるので、残業時間が減りました。ACアダプタが小型ですので出張の時にも助かっています」という評価の声が上がっている。さらに、同社にて時短勤務をしている、ある女性社員からは、「薄くて軽いので、リュックでなくショルダーバッグで運べるようになりました」という声を聞くことができた。社内アンケートでは、今回導入したPC環境に対して、社員の90%以上が満足しているという結果も出ている。

コクヨ株式会社の事例は以下ページより

http://www.fmworld.net/biz/workstyle_henkaku/case/case13.html

テレワークに最適なモバイル端末をご紹介します



富士通LIFEBOOK U938/V

圧倒的な軽さで最高のモビリティを実現した
超軽量モバイルPC

データ漏えいを抑止するセキュリティツール

「Portshutter Premium Attachecase」を標準装備

特長 持ち運びしたくなる超軽量ボディに充実のインターフェイス／セキュリティを装備

- 薄さ約15.5mm ●質量約799g ※標準モデルの場合
- 大容量バッテリーの採用で約17.0時間の連続使用が可能*1
※JEITAバッテリー動作時間測定法（Ver2.0）に基づいて測定
- 指紋センサー／手のひら静脈センサー／スマートカードスロットを搭載可能
- リモートデータ消去ソリューション「CLEARSURE 3G/LTE」/
モバイル利用の際の重要データの漏えいを抑止する秘密分散ソフトウェア
「Portshutter Premium Attachecase」を標準で装備

*1 標準バッテリーの場合の使用時間は8.3時間となります

製品に関する詳細はこちら

<http://www.fmworld.net/biz/fmv/lifebook/u938v/>

秘密分散ソフトウェア「Portshutter Premium Attachecase」の詳細はこちら

http://www.fmworld.net/biz/workstyle_henkaku/solutions_introduction/attachecase.html

お問合せ 富士通株式会社 購入相談窓口 0120-959-242（通話料無料）

受付時間 9:00-18:00（土・日・祝日・年末年始を除く）

※システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただく場合があります。

※電話番号はお間違えのないよう、お確かめのうえおかけください。